

平成 26 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

美 唄 市 調 査 結 果

自己実現を図る美唄市の子どもたちの育成を目指して

平成 26 年 1 2 月

美 唄 市 教 育 委 員 会

■はじめに

本資料は、「平成26年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における美唄市の調査結果を踏まえ、平成25年度からの経年変化や、全道・全国との比較において、北海道教育委員会の作成資料を参考に取りまとめたものです。

目 次

1	調査の概要	1
2	実技に関する調査	
(1)	小学校	
①	全国平均を [50] とした場合の得点分布	2
②	[H26美唄市] と [H25美唄市・H26北海道・H26全国] との対比	3
(2)	中学校	
①	全国平均を [50] とした場合の得点分布	4
②	[H26美唄市] と [H25美唄市・H26北海道・H26全国] との対比	5
3	体格と肥満度に関する調査	6
4	児童生徒質問紙調査	
(1)	小学校	7～10
(2)	中学校	11～14
5	学校質問紙調査	
(1)	小学校	15
(2)	中学校	16

1 調査の概要

(1)調査の目的

- 子どもの体力等の状況に鑑み、全市的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全道・全国的な状況との関係において、自らの子どもの体力の向上に係る成果と課題を把握、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目指す。
- 各学校が児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2)調査の対象

- 市内小学校第5学年の全児童
- 市内中学校第2学年の全生徒

(3)調査の内容

① 児童生徒に対する調査

- ・実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、
 - 20mシャトルラン（中学校は20mシャトルランに替えて持久走も可）、
 - 50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
- ・質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

(4)調査の方法

- 悉皆調査

(5)調査の実施期間

- 平成26年4月から平成26年7月までの期間で実施

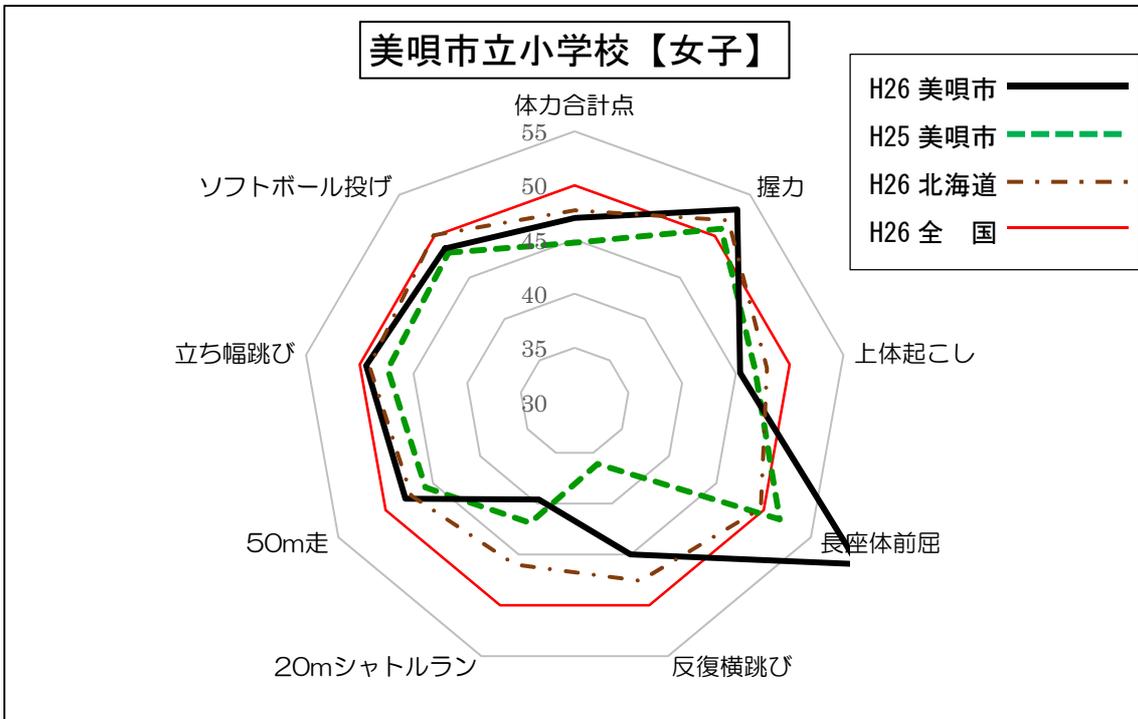
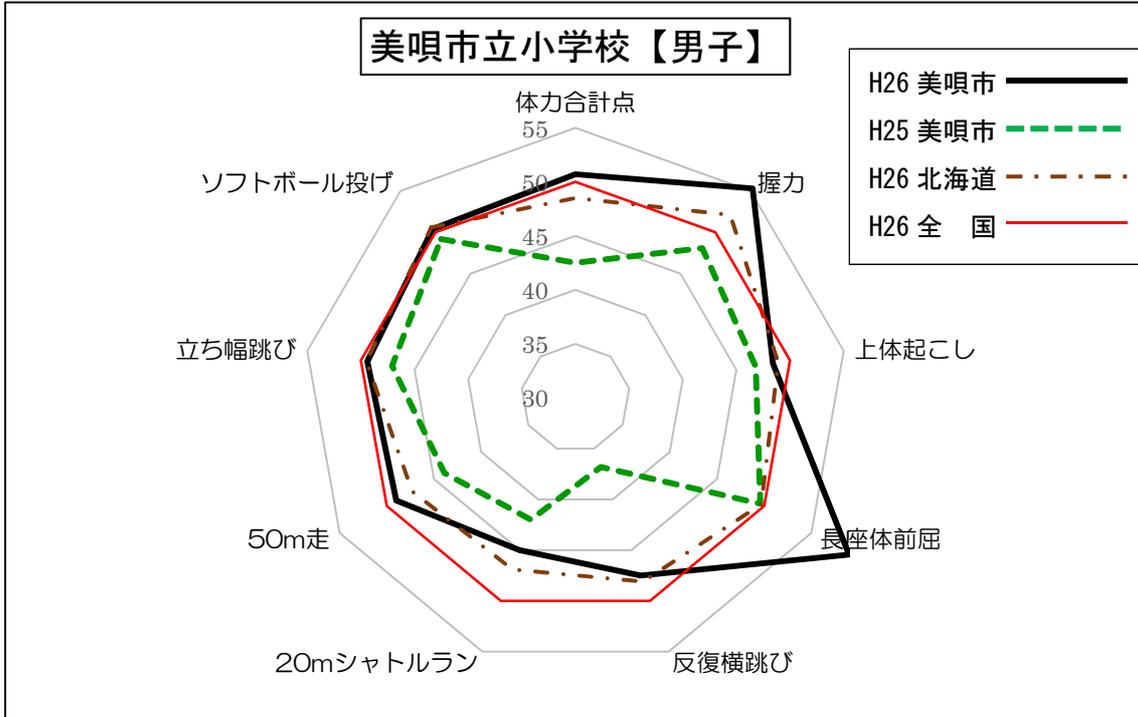
(6)調査学校数・児童生徒数

- 小学校 5校 160名（男子86名、女子74名）
- 中学校 4校 155名（男子80名、女子75名）

2 実技に関する調査

(1) 小学校

① 全国平均を [50] とした場合の得点分布



② [H26 美唄市] と [H25 美唄市・H26 北海道・H26 全国] との対比

* 差が1ポイント未満【同様】 * 差が1以上3ポイント未満【ほぼ同様】
 * 差が3以上5ポイント未満【やや高い・やや低い】 * 差が5ポイント以上【高い・低い】

小学校【男子】				小学校【女子】			
	対H25	対全道	対全国		対H25	対全道	対全国
体力合計点	高い	ほぼ同様	同様	体力合計点	ほぼ同様	同様	やや低い
握力	高い	やや高い	高い	握力	ほぼ同様	ほぼ同様	やや高い
上体起こし	ほぼ同様	同様	ほぼ同様	上体起こし	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い
長座体前屈	高い	高い	高い	長座体前屈	高い	高い	高い
反復横跳び	高い	同様	ほぼ同様	反復横跳び	高い	ほぼ同様	低い
20m シャトルラン	やや高い	ほぼ同様	低い	20m シャトルラン	ほぼ同様	低い	低い
50m 走	高い	ほぼ同様	同様	50m 走	ほぼ同様	同様	ほぼ同様
立ち幅跳び	ほぼ同様	同様	同様	立ち幅跳び	ほぼ同様	同様	同様
ソフトボール投げ	ほぼ同様	同様	同様	ソフトボール投げ	同様	ほぼ同様	ほぼ同様

結果の概要

【小学校男子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国との比較において同様である。また、昨年度（平成25年度）と比較して高い状況にある。
- ・種目別で全国より高いのは「握力」と「長座体前屈」であり、低いのは「20mシャトルラン」である。他は、同様または、ほぼ同様である。
- ・種目別における昨年度との比較においては、「握力・長座体前屈・反復横跳び・50m走」の4種目において高く、「20mシャトルラン」においてやや高い状況にある。

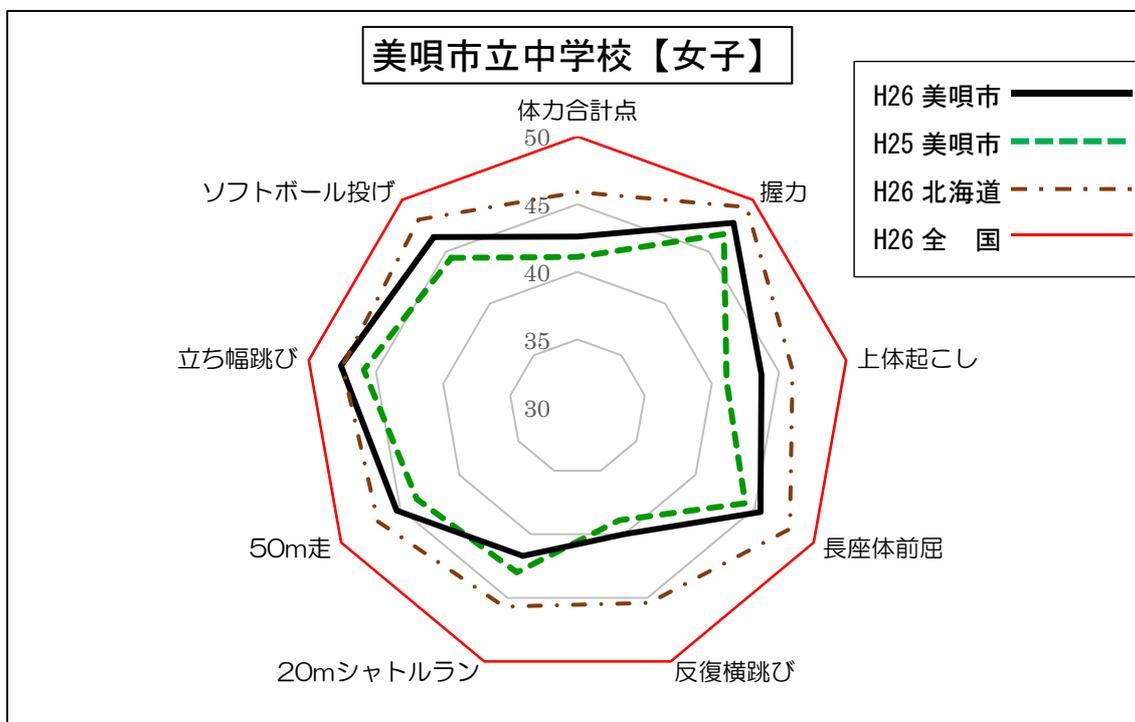
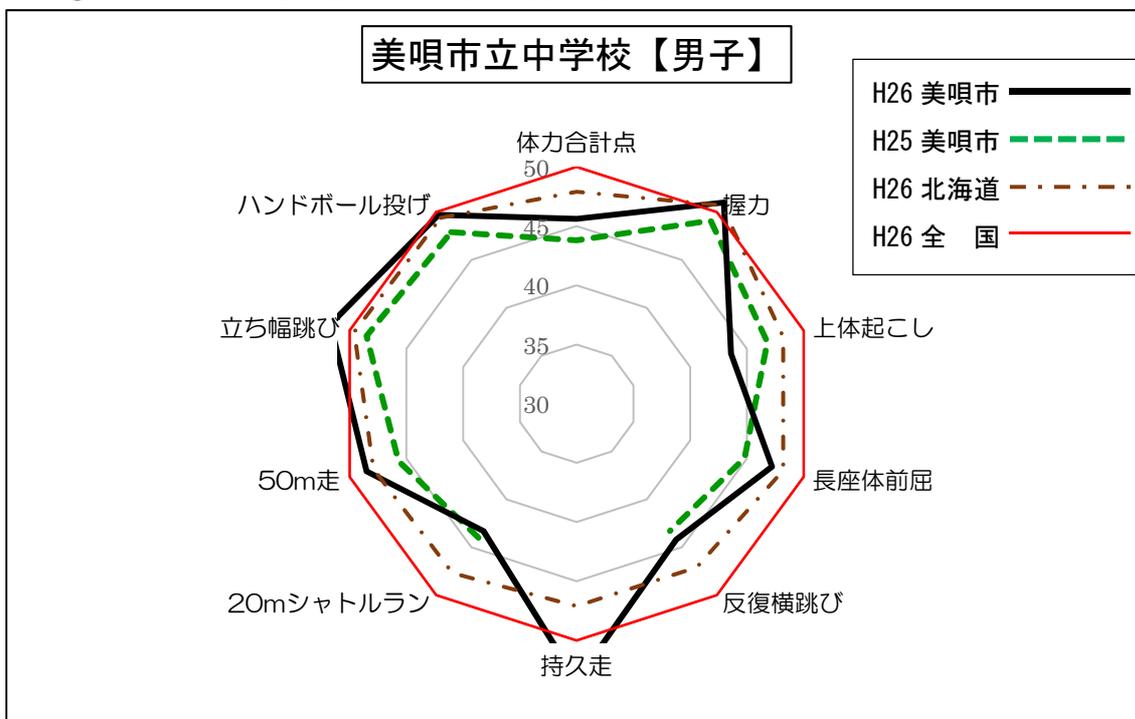
【小学校女子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてやや低い。また、昨年度（平成25年度）と比較してほぼ同様である。
- ・種目別で全国より高いのは「長座体前屈」であり、低いのは「反復横跳び・20mシャトルラン」の2種目である。
- ・種目別における昨年度との比較においては、「長座体前屈・反復横跳び」の2種目において高い。他は、同様または、ほぼ同様である。

昨年度からの経年変化については、男女共に「やや低い・低い」がなく、基礎体力
 ➡ の定着が図られている傾向にある。また、「握力・長座体前屈」については、全道・全国との比較においてほぼ同様から高い状況にあり、得意な種目となりつつある。今後は、男女共に「20mシャトルラン」[持久力]の伸長が課題である。

(2) 中学校

① 全国平均を [50] とした場合の得点分布



② [H26 美唄市] と [H25 美唄市・H26 北海道・H26 全国] との対比

* 差が1ポイント未満【同様】 * 差が1以上3ポイント未満【ほぼ同様】
 * 差が3以上5ポイント未満【やや高い・やや低い】 * 差が5ポイント以上【高い・低い】

中学校【男子】				中学校【女子】			
	対H25	対全道	対全国		対H25	対全道	対全国
体力合計点	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い	体力合計点	ほぼ同様	やや低い	低い
握力	ほぼ同様	同様	ほぼ同様	握力	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様
上体起こし	やや低い	やや低い	低い	上体起こし	ほぼ同様	ほぼ同様	低い
長座体前屈	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	長座体前屈	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い
反復横跳び	同様	ほぼ同様	低い	反復横跳び	ほぼ同様	低い	低い
持久走	—	高い	やや高い	—	—	—	—
20m シャトルラン	同様	やや低い	低い	20m シャトルラン	ほぼ同様	やや低い	低い
50m 走	ほぼ同様	同様	ほぼ同様	50m 走	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い
立ち幅跳び	やや高い	ほぼ同様	ほぼ同様	立ち幅跳び	ほぼ同様	同様	ほぼ同様
ソフトボール投げ	ほぼ同様	同様	同様	ソフトボール投げ	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い

結果の概要

【中学校男子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国との比較においてやや低くなっている。また、昨年度（平成25年度）と比較してほぼ同様である。
- ・種目別で全国よりやや高いのは「持久走」であり、低いのは「上体起こし・反復横跳び・20mシャトルラン」である。他は、同様または、ほぼ同様である。
- ・種目別における昨年度との比較においては、「立ち幅跳び」がやや高く、「上体起こし」がやや低い状況にある。他の6種目については、同様または、ほぼ同様である。

【中学校女子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較においてやや低く、全国との比較において低い。また、昨年度（平成25年度）と比較してほぼ同様である。
- ・種目別で全国より低いのは「上体起こし・反復横跳び・20mシャトルラン」であり、やや低い3種目を加えて、8種目中6種目において全国との差が開いている。
- ・種目別における昨年度との比較においては、全種目においてほぼ同様である。

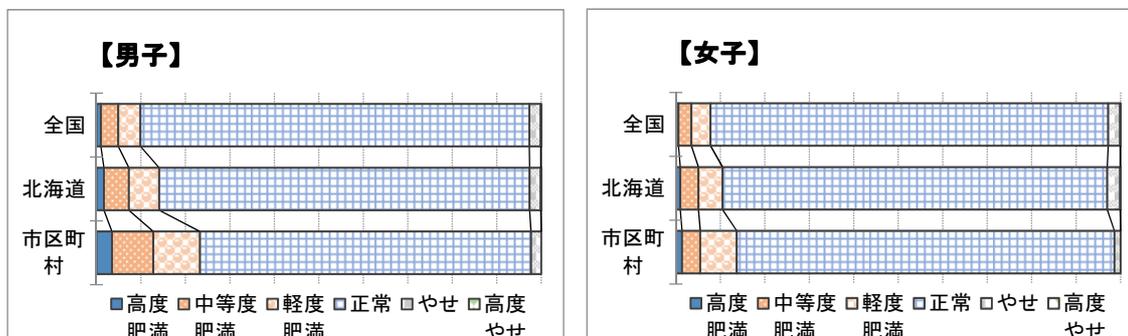
昨年度からの経年変化については、男女共に種目によって若干の違いはあるもの

➡ の、全体的には「横ばい状態」にある。

今後は、男女共に「上体起こし・反復横跳び・20mシャトルラン」の伸長が課題である。

3 体格と肥満度に関する調査

(1) 小学校



結果の概要

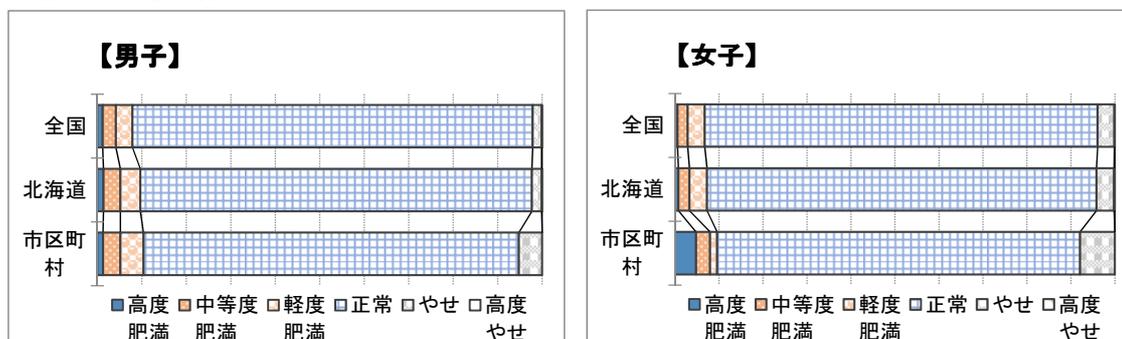
【小学校男子】

- ・全国との比較において、身長・体重共にほぼ同様である。昨年度との比較においても同様である。また、全国との比較における肥満傾向は高く、瘦身傾向は同様である。

【小学校女子】

- ・全国との比較において、身長・体重共にやや高い。昨年度との比較において、身長は同様であり、体重はやや高い。また、全国との比較における肥満傾向は高く、瘦身傾向はほぼ同様である。

(2) 中学校



結果の概要

【中学校男子】

- ・全国との比較において、身長・体重共にやや高い。昨年度との比較において、身長は同様であり、体重はほぼ同様である。また、全国との比較における肥満傾向はほぼ同様であり、瘦身傾向はやや高い。

【中学校女子】

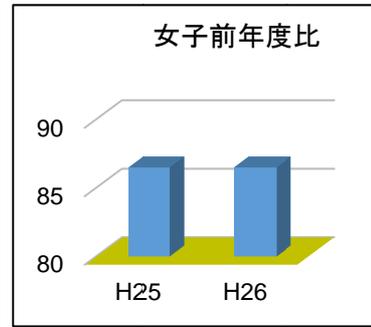
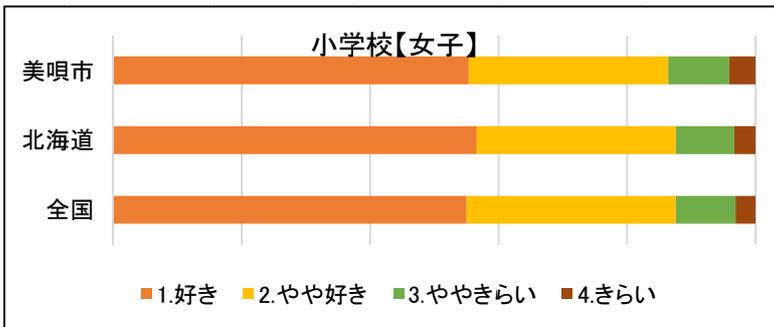
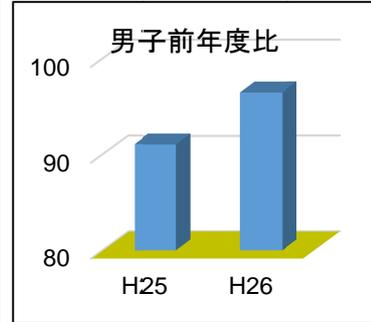
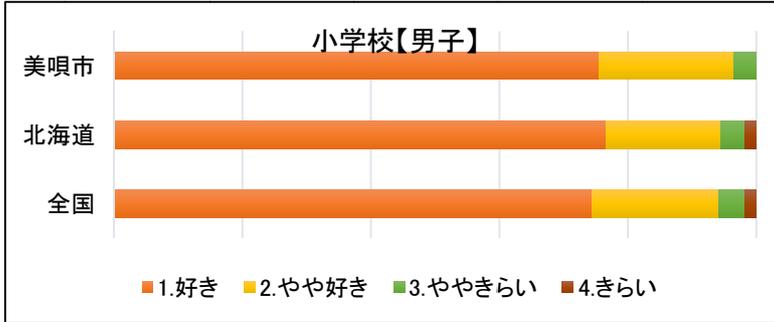
- ・全国との比較において、身長・体重共に同様である。昨年度との比較においても同様である。また、全国との比較における肥満傾向はほぼ同様であり、瘦身傾向はやや高い。

4 児童生徒質問紙調査

(1) 小学校

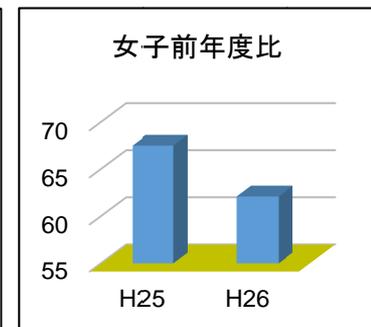
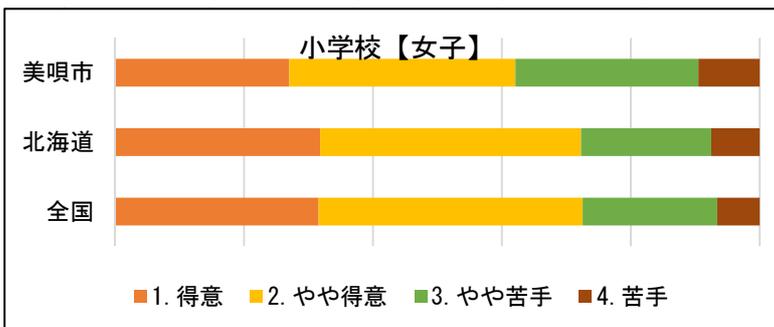
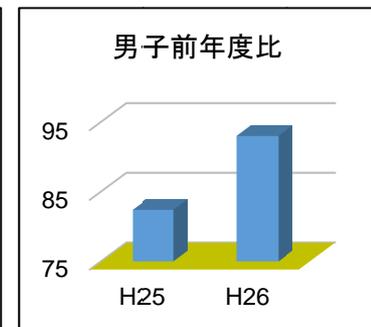
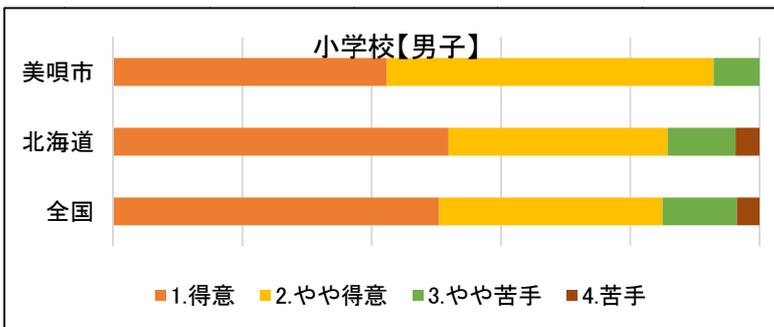
① 運動が好き

※前年度比は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。

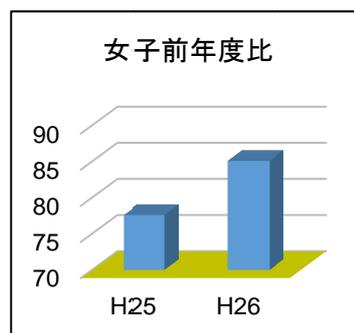
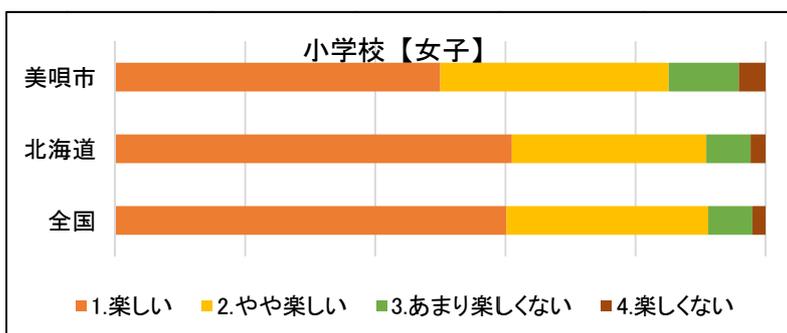
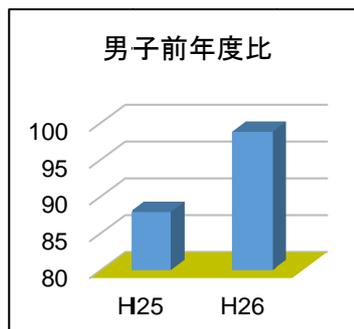
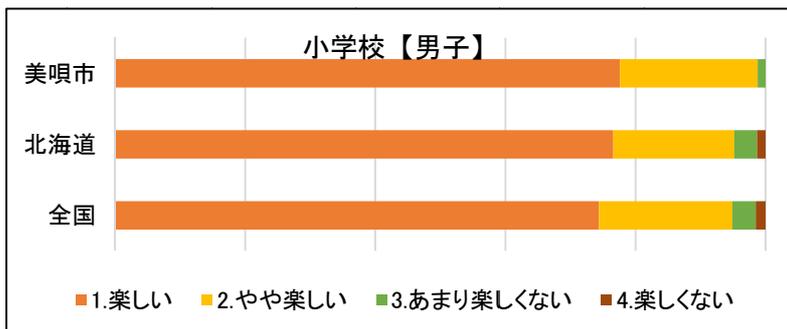


② 運動が得意

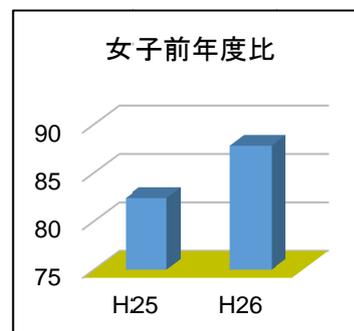
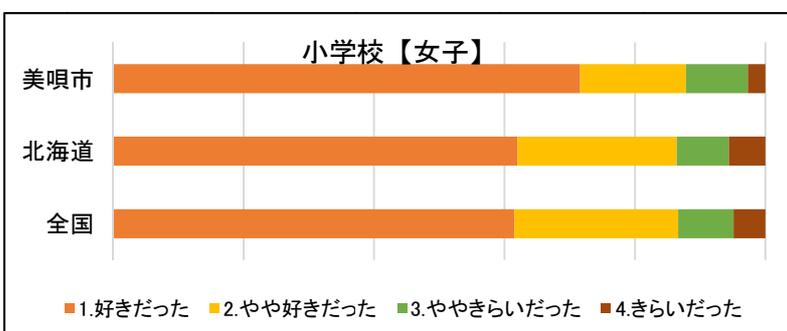
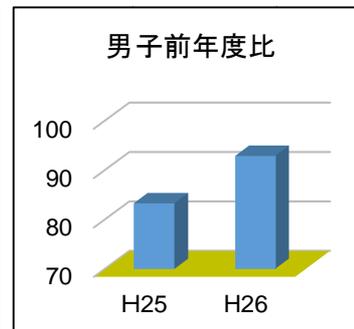
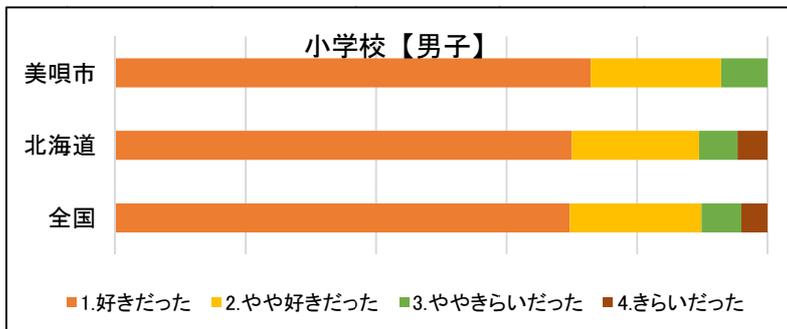
※前年度比は、「得意」と「やや得意」の合計で示しています。



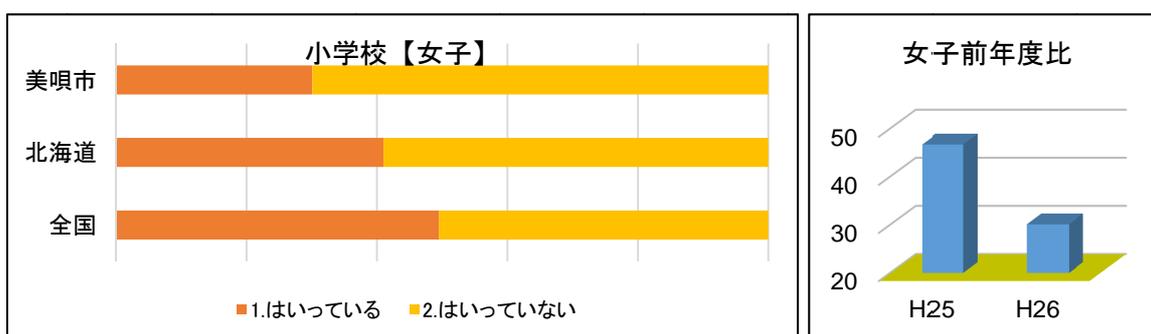
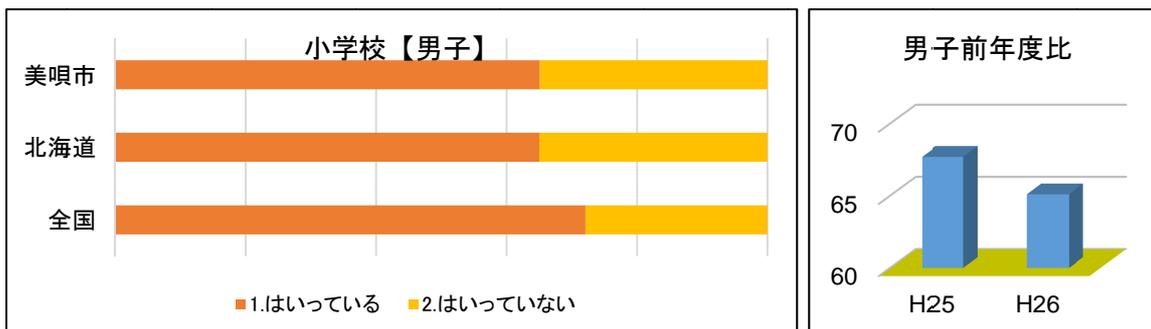
③ 体育の授業は楽しい ※前年度比は、「楽しい」と「やや楽しい」の合計で示しています。



④ 小学校入学前は運動遊びが好き ※前年度比は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。



⑤ 運動部所属 ※前年度比は、「はいている」の割合で示しています。



結果の概要

【小学校男子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した児童は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、昨年度（平成25年度）と比較して高い状況にある。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した児童は、全道・全国との比較において高くなっている。また、昨年度と比較しても高い状況にある。
- ・「体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した児童は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度と比較して高い状況にある。
- ・「小学校入学前は運動遊びが好きだった・やや好きだった」と回答した児童は、全道・全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度と比較して高い状況にある。
- ・「運動部に所属している」と回答した児童は、全道との比較において同様であり、全国との比較において低くなっている。また、昨年度と比較してやや低い状況にある。

【小学校女子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した児童は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、昨年度（平成25年度）と比較して高い状況にある。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した児童は、全道・全国との比較において高くなっている。また、昨年度と比較しても高い状況にある。

- 「体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した児童は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度と比較して高い状況にある。
- 「小学校入学前は運動遊びが好きだった・やや好きだった」と回答した児童は、全道・全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度と比較して高い状況にある。
- 「運動部に所属している」と回答した児童は、全道との比較において同様であり、全国との比較において低くなっている。また、昨年度と比較してやや低い状況にある。

➡ 「小学校男子」については、運動することを好ましく捉えている傾向がうかがえ、それに比例して体育の授業にも楽しく取り組んでいる児童が多いことが分かる。これは、昨年度との比較においても同じである。進んで身体を動かすことは、体力づくりや運動習慣を育てる大切な要素であり、今後もこの傾向を継続していくことが求められる。

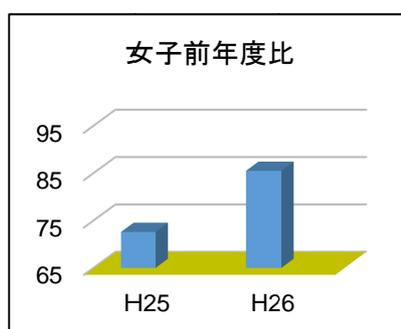
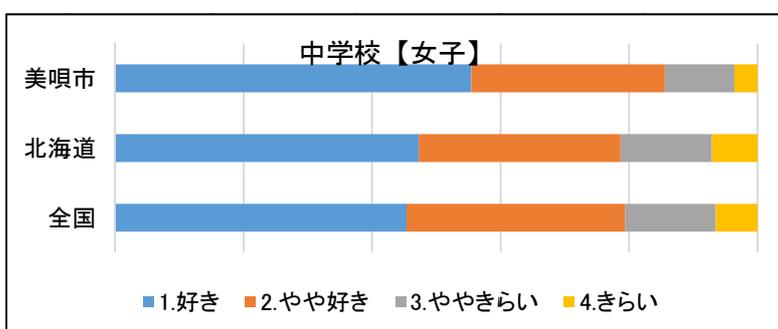
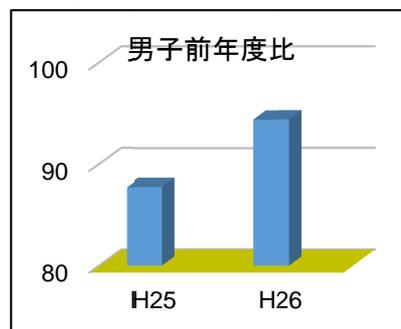
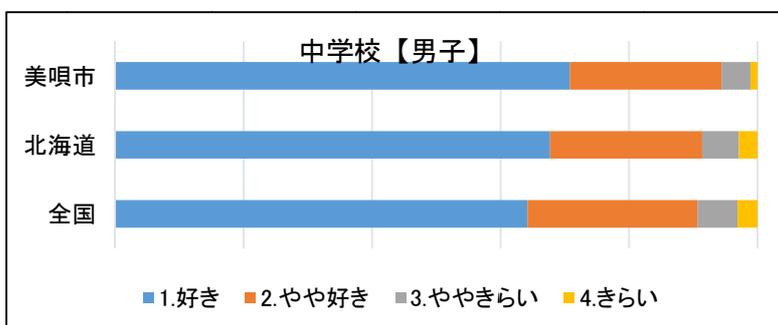
「小学校女子」については、全道・全国に比べて運動することへの積極性や楽しさが低い傾向にある。ただ、小学校入学以前には運動遊びが好きだった児童がかなり高い割合で存在していることから、幼・保・小・中の継続した取組が求められる。

「運動部への所属」については、男女共に全国に比べて低い状況にあるとともに、昨年度との比較においても所属の割合が減少傾向にある。この要因は様々考えられるが、少年団等での活動をしなくても、何らかの形で身体を動かす習慣づくりが必要であり、家庭や地域との連携も視野に入れての取組が求められる。

(1) 中学校

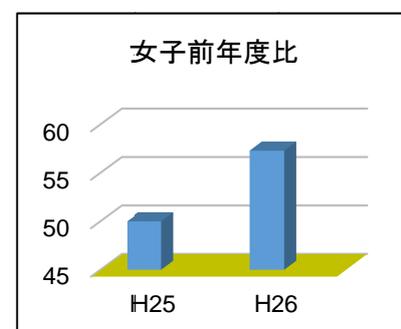
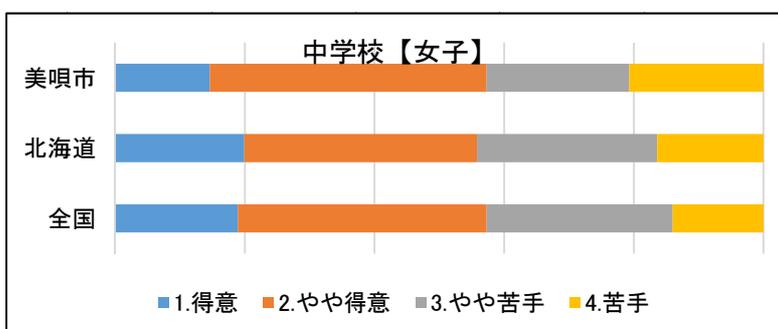
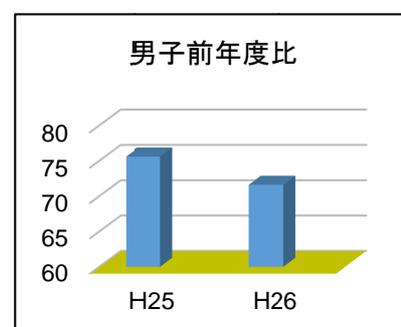
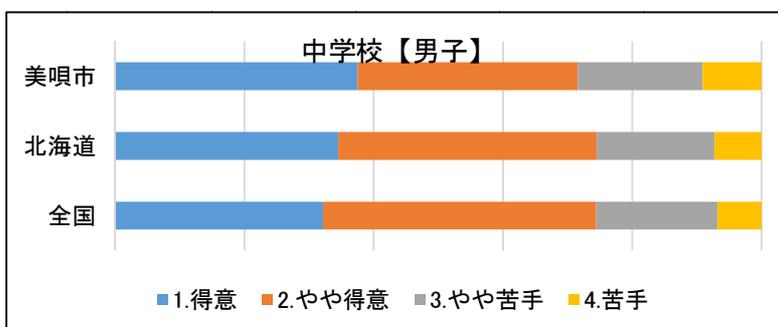
① 運動が好き

※前年度比は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。

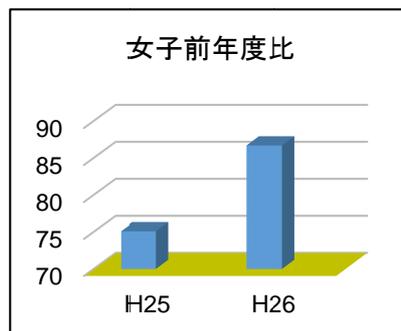
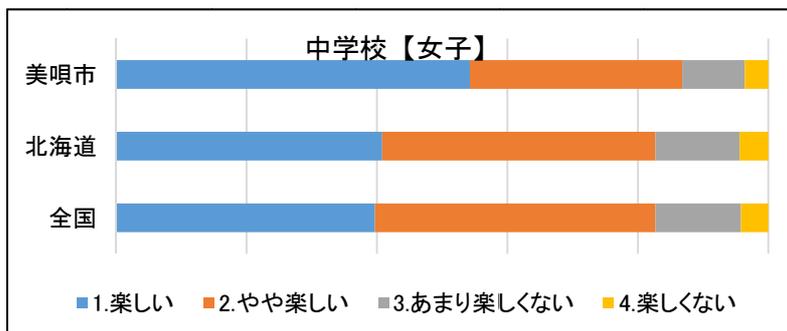
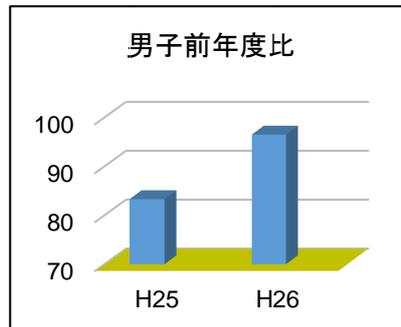
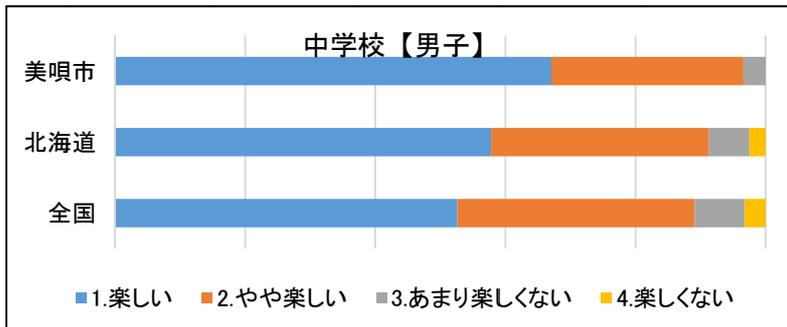


② 運動が得意

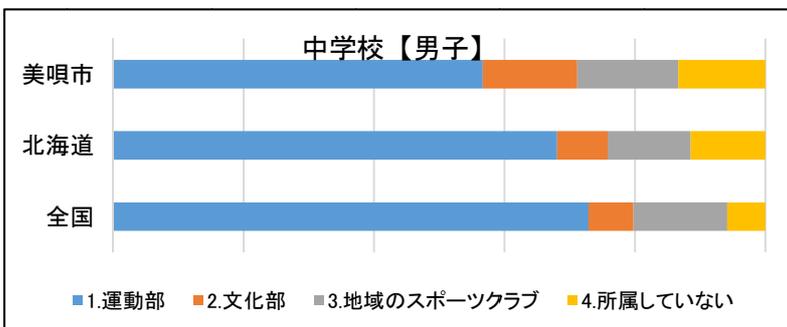
※前年度比は、「得意」と「やや得意」の合計で示しています。



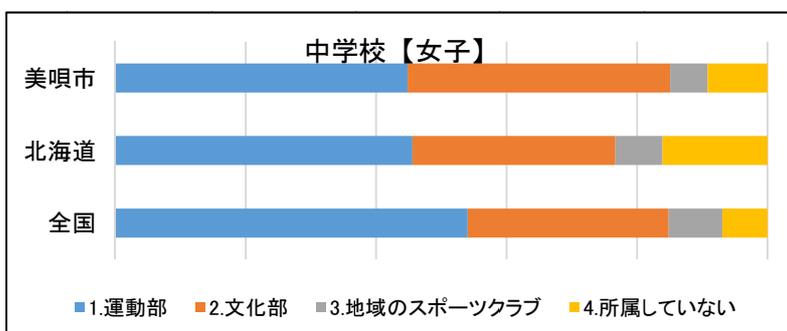
③ 保健体育の授業は楽しい ※前年度比は、「楽しい」と「やや楽しい」の合計で示しています。



④ 部活等の所属 ※前年度比は、質問内容が異なるので比較できません。



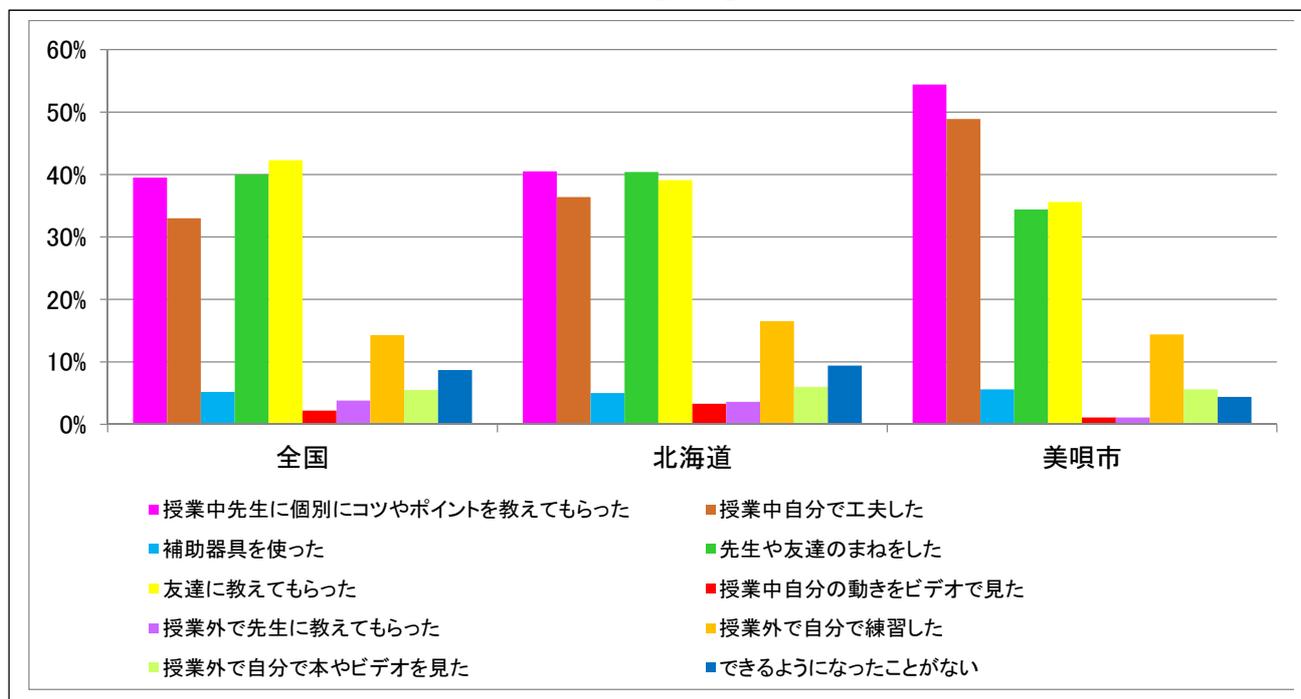
【前年度比較なし】



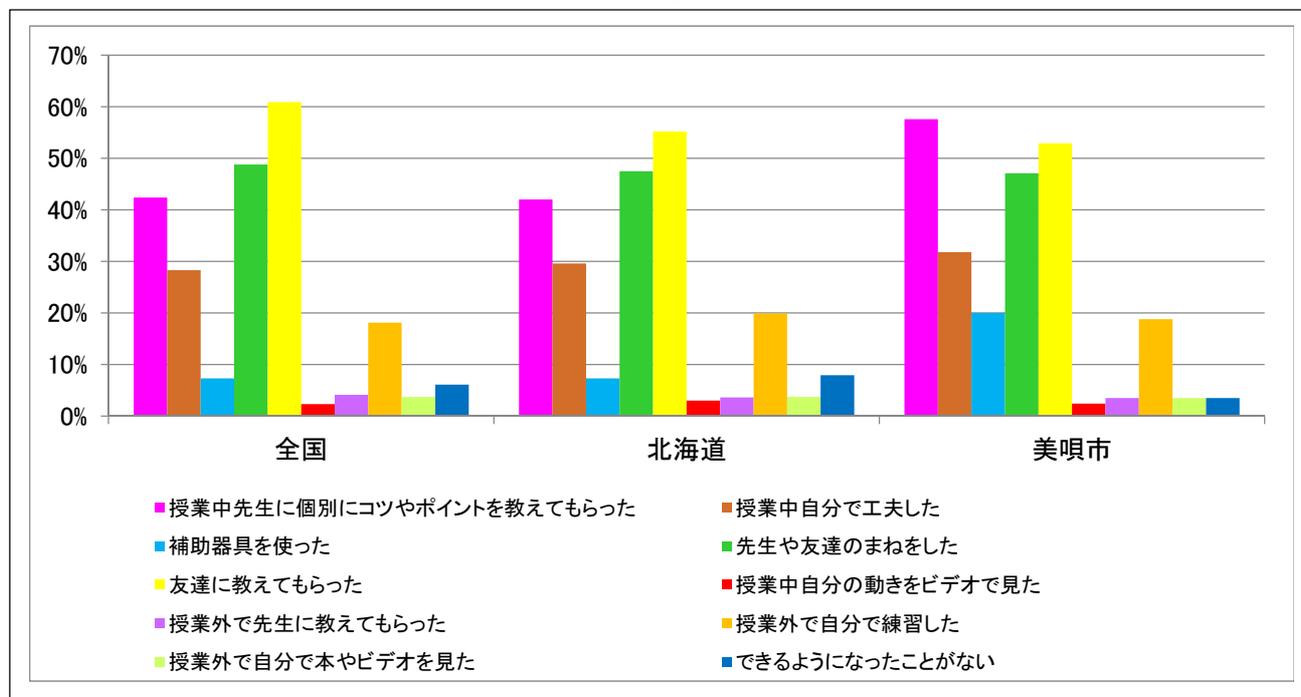
【前年度比較なし】

⑤ 保健体育の授業について、できないことができるようになったきっかけ ※複数回答

中学校【男子】



中学校【女子】



結果の概要

【中学校男子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した生徒は、全道・全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度（平成25年度）と比較して高い状況にある。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した生徒は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、昨年度と比較してやや低い状況にある。
- ・「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した生徒は、全道・全国との比較において高くなっている。また、昨年度と比較しても高い状況にある。
- ・「部活動（運動部・地域のスポーツクラブ）等に所属している」と回答した生徒は、全道・全国との比較において低くなっている。また、昨年度との比較については、設問の項目が同一でないことから行っていない。

【中学校女子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した生徒は、全道・全国との比較において高くなっている。また、昨年度と比較しても高い状況にある。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した生徒は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、昨年度と比較してやや低い状況にある。
- ・「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した生徒は、全道・全国との比較においてやや高くなっている。また、昨年度と比較して高い状況にある。
- ・「部活動（運動部・地域のスポーツクラブ）等に所属している」と回答した生徒は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国との比較において低くなっている。また、昨年度との比較については、設問の項目が同一でないことから行っていない。

➡ 「中学校男子」については、得意だと感じている意識は小学校に比べて下がっているものの、保健体育の授業に楽しく取り組んでいる生徒は高い割合を示している。これは、昨年度との比較においても同じである。進んで身体を動かすことは、体力づくりや運動習慣を育てる大切な要素であり、今後もこの傾向を継続していくことが求められる。「中学校女子」についても、傾向は、男子と同じような結果となっている。

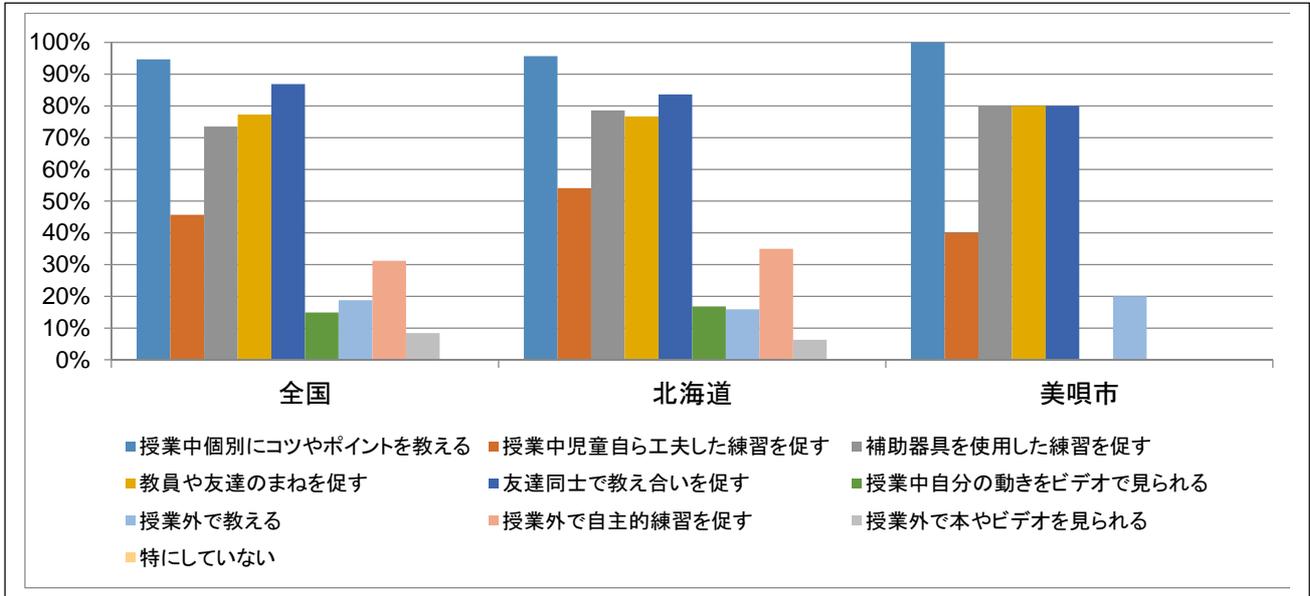
「部活動等への所属」については、男女共に全国に比べて低い状況にある。その傾向は小学校から継続しているものと考えられる。この要因は様々考えられるが、部活動等での活動をしなくても、何らかの形で身体を動かす習慣づくりが必要であり、家庭や地域との連携も視野に入れての取組が求められる。

また、「保健体育の授業について、できないことができるようになったきっかけ」として、本市の生徒は男女共に「授業中、先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」という回答が一番高かった。このことから、教師がポイントを押さえた指導を日常的に実践している様子がうかがえる。また、「友達に教えてもらった」という回答も高いことから、グループ学習等を取り入れて生徒同士が教え学び合う環境が整っていると推察される。今後も継続した取組が求められる。

5 学校質問紙調査

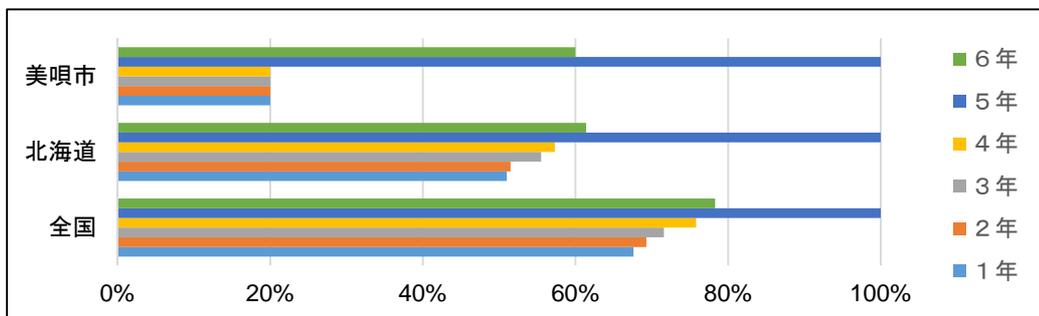
(1) 小学校

① 第5学年が受けている体育の授業で、努力を要する児童に対する取組 ※複数回答



② 新体力テストを実施している学年

※複数回答



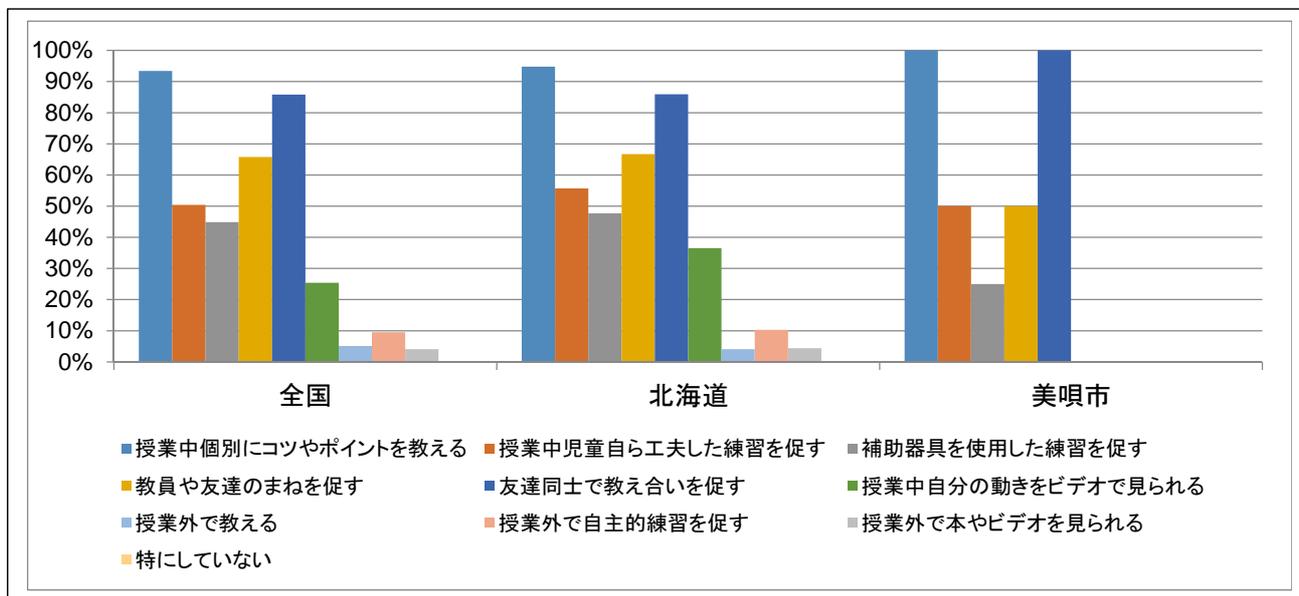
結果の概要

- 「努力を要する児童に対する取組」については、「授業中、個別にコツやポイントを教える」が一番高かった。これは、児童が求める授業像とも合致しており望ましい指導方針であるといえる。今後も、教材・教具の工夫やグループ学習等を積極的に取り入れた授業展開を組み立てるなど、児童の興味や意欲を高めながら、達成感を味合える授業づくりに取り組む必要がある。
- 「新体力テストを実施している学年」については、全学年での実施が求められているが、本市においては特に低学年に取組の遅れが見られる。今後の課題である。

(2) 中学校

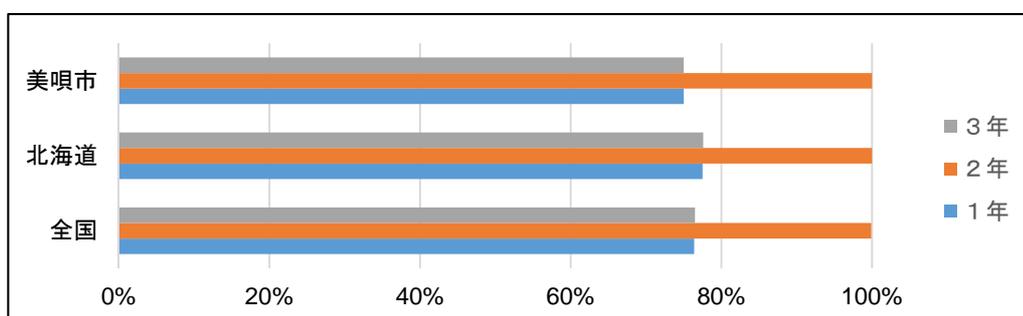
① 第2学年が受けている保健体育の授業で、努力を要する生徒に対する取組

※複数回答



② 新体力テストを実施している学年

※複数回答



結果の概要

- 「努力を要する生徒に対する取組」については、「授業中、個別にコツやポイントを教える」が一番高かった。これは、生徒が求める授業像とも合致しており望ましい指導方針であるといえる。今後も、教材・教具の工夫やグループ学習等を積極的に取り入れた授業展開を組み立てるなど、生徒の興味や意欲を高めながら、達成感を味合える授業づくりに取り組む必要がある。
- 「新体力テストを実施している学年」については、全学年での実施が求められており、1学年と3学年についての取組も増えてきている。今後、全学年において100%になるよう引き続き取り組んでいく必要がある。